

ふるさと会 ふるさとに思いを寄せて

福島・常葉会と東京ふねひき会の総会がそれぞれ開催されました。

【福島・常葉会】

福島・常葉会通常総会は2月2日、杉妻会館（福島市）で開かれ、会員や来賓など17人が出席しました。

総会では、白岩康夫会長があいさつし、来賓の本田仁一市長、渡邊照雄市議、菅野正兵ふるさと常葉交流会会长が祝辞の後、「ふるさと訪問」などの新年度事業計画と予算、役員改選などの議事が承認されました。

懇親会では、会員の渡辺龍夫さんの手打ちそばが振る舞われ、おいしいそばを味わいながら、楽しい時間を過ごしました。

【東京ふねひき会】

第31回東京ふねひき会総会は2月16日、東京都荒川区のホテルラングウッドで開かれ、会員と市関係者合わせて約100人が出席しました。

懇親会では、懐かしい友との再会を喜び、思い出話に花を咲かせたり、ふるさと産品が当たる抽選会が催されるなど、会場は大いに盛り上りました。最後は全員で「故郷」を合唱し、「がんばっぺ、東京ふねひき会」三唱で閉会しました。



▲福島・常葉会



▲東京ふねひき会

地域おこし協力隊奮闘記

菅原有記です。早いもので着任してから1年が経ちました。今回は昨年秋に田村市を訪れたタイの有名タレントにお茶と着物の体験をしてもらったお話をします。今日は市内を観光して、タイから活動の一環として、タイからいらっしゃった皆さんに市内を観光してもらいました。私も、夜に宿泊した星の村ふれあい館で、着物の着付けとお抹茶の体験をしてもらいました。私は自身、茶道裏千家を3年ほど習っていますが、茶道の世界の3年は、会社員で例えると3ヶ月の試用期間が終わつたようなものです。そんな私ですか、亭主として客人をもてなすのは、今回が初めてでした。私がお会いしたタイの有名タレント「アイス・サンランユー」さんは、大変物腰が柔らかく、知性を感じさせる方でした。「タイの福山雅治」と呼ばれるのも、そんなところにあるのでしょうか。仏教国であるタイ人と、茶道の精神には近いものがあるのか、

菅原日記

vol.03



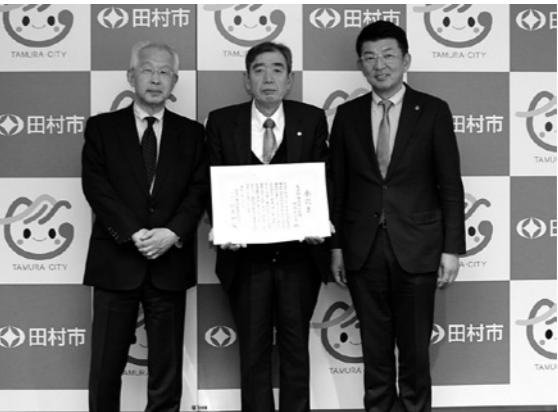
お客様視点のおもてなし

違和感もなく、すんなりと楽しんでいただけたようでした。ただ、「正座」は難しかったようで、お茶をはじめて間もなく、足を崩されていました。私が東京で習っていたお茶の先生は御年82歳で、お年を召されても正座を続けられるように、ジムにて通つて筋トレをされていました。近ごろ「おもてなし」という言葉をよく聞きます。おもてなしの主役はもてなされる側!!お客様が主役。お客様の声を聞くことを、ビジネスの世界では「マーケティング」と呼びます。お客様まである「よその」視点の取り組みがもつと増えれば、田村市が観光客でにぎわうかも知れませんね。

鬼五郎太鼓 東日本鉄道文化財団が鬼五郎幡五郎和太鼓の活動を支援

(公財)東日本鉄道文化財団が鬼五郎幡五郎和太鼓保存会の活動を助成することが決まりました。1月9日に市役所で、財団の小暮和之理事長から保存会の湯佐清光会長に助成事業通知書が手渡され、本田市長が立ち会いました。

今回の助成は、保存会の老朽化した太鼓などの資器材の修繕整備などに充てられます。財団の助成を受けて、保存会には後継者育成も含め、伝統芸能の保存が期待されます。



船引町民謡民舞の会 舞踊・唄で新年を祝う

1月19日、船引町民謡民舞の会連絡協議会「新春交歓会」が船引総合福祉センターで開催され、17団体94人が参加しました。

吉田忠男会長が「会員の皆さまが、ご健康と幸多き良き一年でありますよう、更なる精進を期待しております。」とあいさつ。会員が舞踊や唄などの演目を披露し、拍手や歓声があがっていました。

参加者からは「演技ができ、余興が楽しかった。」などの感想が聞かれました。



団子さし 色とりどりの団子に願いを込めて

2月1日、市歴史民俗資料館で新春の伝統行事「団子さし」が行われました。「団子さし」は五穀豊穣（ごこくほうじょう）や無病息災などを願い行われていたもので、参加した親子34人は、紅白の団子や鯛、米俵、小判などをかたどった縁起物をミズキの枝に飾りつけ、昔ながらの伝統行事を楽しみました。飾り付けた後は、あんこやきな粉であえた団子を、みんなで美味しく味わいました。



菅谷駅 磐越東線菅谷駅の新駅舎が利用開始

昨年夏から老朽化による改築工事が進められていた菅谷駅の新駅舎が完成し、2月8日から利用開始されました。

滝根町観光協会（蒲生康博会長）と菅谷大字会（佐藤義博会長）共催で新駅舎開業を記念してオープニングセレモニーが行われました。約35人の地元関係者が出席し、新駅舎の利用を通じての観光誘客や地域活性化に期待をよせていました。

